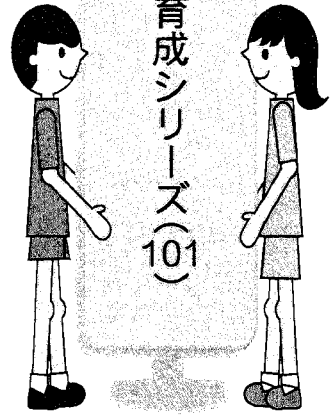
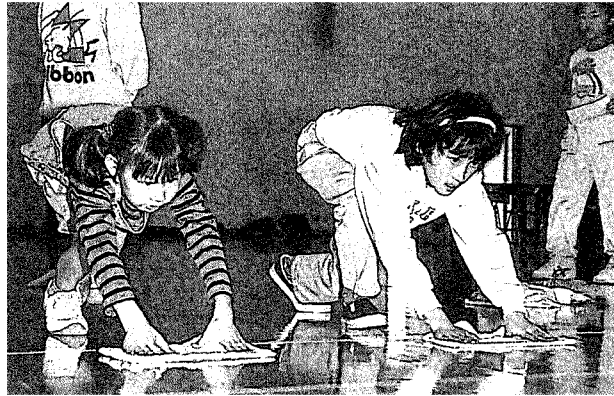


# 子どもの教育

健全育成シリーズ(101)



## 一緒に考えて みましょう



**B**という保護者は、多くの仲間がしているという理由で黙認しました。この場合は、価値基準・判断基準の設定、行動の規範づくりなどをどのような形で教え、どのように育てているのか心配になる例です。  
**C**という保護者は、持つていくという行為について深く考えるのではなく、ただ持つて

不必要なアメ・ガム・ジュースなどを持つて登校する我が子を確認した場合、どう対応しますか？

## 親としての 役割って何

# 育てよう！

**A**という保護者は、平素の我が子が何を考え、どんな友だちとお付き合いをし、どんな態度でどのような行動をしているかという子どもの実態に無関心なので、何の指導もできませんでした。つまり、放任です。

いくことを禁止する為に厳しくしました。これは、後味も悪く、平常心を失い冷静な判断ができませんでした。  
**D**という保護者は、「注意したんだけど言うことを聞かないんだから。先生に叱られるのはあなただよ。知らないよ。」と言いつつ半ば諦めて学校へ送り出しました。

以上四つの例だけでも、親としての役割が充分でないことに気づいたことと思います。

## では、どうすることが 望ましいでしょうか？

日常の家庭生活を送る中で、家庭内の「和」「信頼関係」を築く努力が必要です。特に、親子のふれあいを充分にすることです。遊びや会話などのふれあいを通してこそ、親の願いや価値観が我が子に届くのだと思います。大切なことは、深い愛情の中で幼少のころから善悪の区別を意識させ、親としてキチンとした判断基準や価値観を伝えながら教諭して育てることだと思えます。このような保護者の深い愛情に包まれながら育

てられているという子どもの認識が無ければ、いとわしい我が子の心は荒んだものになってしまう。言語でうまく表現できない幼少の子どもだから、何も理解していないだろうと勝手に判断しないほうが良いと思います。こうした子どもたちは、大人以上に鋭く敏感な感覚を働かせ保護者の愛情を確認しながら生活しているものです。

## 愛情を持つて育てる

我が子を潤いのある心の持ち主に育てる為には、失敗してもイライラせず、深い愛情の中で繰り返し大切なことを子どもに伝えることが肝要です。

私たち大人も多くの失敗を重ねながら成長してきたことと思えます。要するに、甘やかすことなく深い愛情に包みながら大切に育てることだと思えます。このように保護者の深い愛情で育てられた子どもには、豊かな潤いのある心が育ちます。

大きく成長した段階でも、必ず挫折したり苦悩したりすることに遭遇することがあると思えます。

その時、保護者から前述したような心を育てられていると、傷ついた精神的患部を癒すことは可能だと思えます。また、キチンとした価値観に立脚しての判断や善悪の区別も可能だと思えます。逆に、愛情あふれる家庭教育を十分に受けずに成長した場合の我が子の将来を想像すると子どもが不幸で、可哀想です。

## 他人まかせではなく、 責任を持つ

社会的に許されなことをしたり、他人に迷惑をかけることが多くて困っている保護者は、友だちや学校などを非難するだけでなく自分の我が子への対応や親・大人としての生き方を省みることで、光明を見いだせる場合が多くあります。

我が子が豊かで幸福な生活を送れる為には、他人任せの子育てではなく親自身がキチンと責任を持つこと。子どもは、親が育てたいようには育ちません。親の様子を見て育ちます。

# 潤いある心を……